

# 指導と評価の一体化を目指して 図画工作・美術

学習指導要領の総則では、「授業の改善」（指導）と「評価の改善」（評価）を一体的に充実させていくことの重要性が示されています。学習評価によって、「児童生徒にどういった力が身に付いたか」を的確に捉えて、教師は指導の改善を図ること、児童生徒は自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにすることが大切です。ここでは、1. 学習評価の進め方の手順、2. 指導と評価の計画の作成のポイント、3. 評価の進め方、評価の総括について示します。

P 4 3 参照

## 1. 学習評価の進め方の手順

### 1 題材の目標を作成

### 2 題材の評価規準を作成

### 3 「指導と評価の計画」を作成

授業を行う

### 4 観点ごとに総括する

○学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する

○児童の実態、前題材までの学習状況等を踏まえて作成する

○1、2を踏まえ、評価場面や評価方法等を計画する  
○どのような評価資料（児童の反応やノート、ワークシート、作品等）を基に、「おおむね満足できる」状況（B）と評価するかを考えたり、「努力を要する」状況（C）への手立て等を考えたりする

○3に沿って観点別学習状況の評価を行い、児童の学習改善や教師の指導改善につなげる

○集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価（A、B、C）を行う

〈評価規準の例〉

P 5 1 参照

＜第3学年及び第4学年の「絵や立体、工作」の設定例＞

題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の感覚や行為を通して、形や色など感じが分かっている。</li> <li>木片やのこぎり、接着剤を適切に扱うとともに、前学年までの木についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。</li> </ul>	形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、木片を切ったり組み合わせたりして想像したことから、表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。	つくりだす喜びを味わい進んで木を切ったり組み合わせたりして立体に表す学習活動に取り組もうとしている。



## 2. 指導と評価の計画の作成のポイント

P 5 5 参照

- ・ 単元（題材）の目標や評価規準、単位時間のねらい・学習活動を基に「記録に残す評価」を位置付けます。
- ・ それ以外の時間は「指導に生かす評価」を行います。
- ・ 毎時間記録に残す評価を残す必要はありませんが、各観点について総括的な評価ができるように配慮します。

指導と評価の実際は  
P 5 6 ~ 参照

時間	ねらい・学習活動	評価の観点、評価方法等				備考
		知	技	思	態	
		知識	技能	発想や 構想	鑑賞	
1	・のこぎりの扱い方を知り、木をいろいろな長さや形に切る。					<p>1, 2時間目は記録に残す評価はしないが、「<u>技能</u>」の視点で児童の学習状況を把握し、指導に生かす。<u>それを踏まえて</u>5時間目に「<u>技能</u>」の視点で児童の活動の姿などを捉え、記録に残す。</p> <p>3時間目は記録に残す評価はしないが、「<u>思考・判断・表現（発想や構想）</u>」の視点で児童の学習状況を把握し、指導に生かす。<u>それを踏まえて</u>4時間目に「<u>思考・判断・表現（発想や構想）</u>」の視点で児童の活動の姿などを捉え、記録に残す。</p> <p>5時間目は「<u>知識</u>」、「<u>技能</u>」の視点で児童の学習状況を把握し、記録に残す。</p> <p>6時間目は「<u>思考・判断・表現（鑑賞）</u>」の視点で児童の学習状況を把握し、記録に残す。また、「主体的に学習に取り組む態度」は、<u>活動全体を通して</u>把握し、最後に記録に残す。</p>
2	・のこぎりを適切に扱う。		○			
3	・切った木(木片)を並べたり組み合わせたりしながら、表したいことを見付け、どのように表すかについて考える。			○		
4			◎	観察 対話 作品		
5	・さらに木を切って組み合わせるなどしながら、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。	◎ 観察 対話 作品	◎ 観察 対話 作品			
6	・自分たちの作品を見て、感じ取ったり考えたりしたことを友人と話し合いながら、自分の見方や感じ方を広げる。			◎ 観察 対話 作品カード	◎ 観察 対話 作品 作品カード	

### 3. 観点別学習状況の評価の進め方のポイント

P 5 9 参照

評価の総括は、題材の評価規準に照らして、主に、指導と評価の計画で明示した全員の学習状況を記録に残した評価を基に行う。総括では、「知識・技能」では「知識」と「技能」を、「思考・判断・表現」は「思考・判断・表現（発想や構想）」と「思考・判断・表現（鑑賞）」とを考え合わせて総括することになります。

題材の内容、題材の時間数、年間指導計画との関連などを踏まえ、重点を置く観点があるかどうか、ある場合どの観点到重点を置くかなどを考えながら評価規準を設定し、その上で、表現と鑑賞の評価の観点の関連などについて考えることが重要です。

参考資料

・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）